

2020年4月1日

ケニア共和国キリフィ県における新たな母子保健支援事業の開始 —医療アクセス改善に向けた「Mother to Mother SHIONOGI Project」第二期事業の開始について—

塩野義製薬株式会社（本社：大阪市中央区、代表取締役社長：手代木 功、以下「塩野義製薬」または「当社」）は、このたび、アフリカの母子の健康を支援する「Mother to Mother SHIONOGI Project」の第二期事業として、ケニア共和国キリフィ県において新たな支援事業を開始いたしましたので、お知らせします。

ケニア共和国を含むサブサハラ・アフリカ地域の母子の健康に関する環境は、今でもなお5歳未満児死亡率は出生1,000件中78件、妊産婦死亡率は出生10万人当たり533人¹に上り、SDGsにおいて掲げる目標（それぞれ25件以下、70人未満）²との間にはまだ大きな隔りがあります。

塩野義製薬は、2015年から母子の健康を応援する「Mother to Mother SHIONOGI Project」を開始し、塩野義製薬、シオノギグループの社員からの寄附をもとに、国際NGOワールド・ビジョンの協力により、ケニアの母子健康改善に向けた取り組みを行っています³。

第一期事業（2015年10月～2020年9月）では、ケニア共和国ナロク県において、診療所の建設や、地域住民に保健医療教育を推進するなど様々な取り組みを行い、課題であった診療所来院者数や診療所での出産件数は着実に増加しており⁴、目標としていた「母子保健活動を自立的かつ持続的に行えるコミュニティの実現」において成果が確認できつつあります。

新たな支援事業地であるキリフィ県は、頻発する干ばつにより、ケニア国内でも貧困率が最も高い地域の一つです。保健施設や保健人材の不足、安全で清潔な水へのアクセスが限られており、妊産婦死亡率が高く、HIVやマラリアの高い感染率などの課題があります。第一期事業の経験を活かし、「医療施設の整備」、「住民への啓発」、「保健人材の能力強化」に加え、地域の診療所を統括する上位層の病院との連携を通じて、第一期事業より支援対象地域を拡大し、地域全体のコミュニティ保健システムの強化に取り組めます。

塩野義製薬は、「シオノギグローバルヘルスアクセスポリシー」を制定し、取り組むべき重要課題として「医療アクセスの向上」を推進しております。当社は、本事業を通じて医療アクセスの改善に向けた取り組みを推進し、SDGsの達成に貢献してまいります。

以上



SDGs：今回のテーマに当てはまる目標

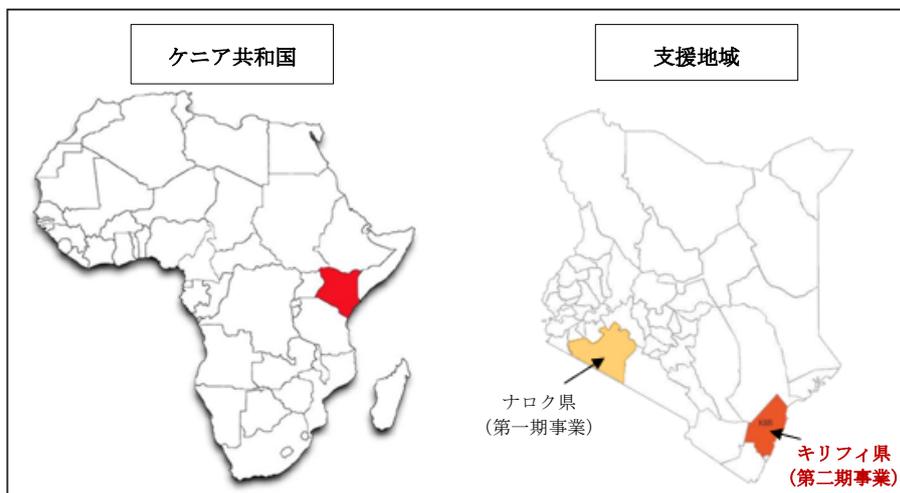
Press Release



<新支援事業の概要>

協力団体： 国際協力 NGO ワールド・ビジョン

支援地域： ケニア共和国 キリフィ県ガンゼ準県 バンバ地域及びジャリブニ地域



寄附金額： 年間 6,000 万円を拠出

期 間： 2020 年 4 月～2023 年 3 月

支援内容： 3 診療所の整備、巡回診療、医療従事者への教育、水供給設備等の衛生環境の整備、住民への啓発活動、地域の保健人材の育成・地域の保健システム強化、現地保健省との連携

<ワールド・ビジョンについて>

キリスト教精神に基づいて、貧困や紛争、自然災害などのために困難な状況で生きる子どもたちのために活動する国際協力 NGO。国連経済社会理事会に公認・登録され、約 100 カ国で活動しています。(<https://www.worldvision.jp/>)

[お問合せ先]

塩野義製薬株式会社 広報部

TEL : 06-6209-7885

参考：

1. <https://www.unicef.org/media/63016/file/SOWC-2019.pdf>
2. http://www.soumu.go.jp/main_content/000562264.pdf
3. [2015 年 10 月 15 日プレスリリース](#) : アフリカ・ケニアの母子支援活動の開始
4. http://www.shionogi.co.jp/company/csr/act/mtom_report/report_2018_all.html